

パンタナール通信

南北米福地開発協会

会報

2013年6月1日

117号



フランコ大統領、パク放流の式典参加のためレダを訪問！

(二〇一三年五月三日)

朝七時半時に大統領を護衛する軍隊の飛行機が到着し、二十名を超える軍人が機関銃などを持つて降りてきました。国の中心である大統領を迎えるということは国の威信をかけていることを感じました。代表五人が施設を見て回り、安全を確認し、前もって大統領が動く全ての経路を中田所長が案内しておりました。昨日、大統領の式典関係者が車で十名ほど到着しており、それ以外にも政府の関係者が十名ほど車で来て、大統領関係者だけで総勢四十名を超えるました。

午前八時三十分には中井さんがVIPとともに飛行機で降り立ちました。皆、初めてのレダ訪問で施設の素晴らしさ、特にブールの水の美しさには目を奪われているのがわかりました。近隣の村からは車で人々が到着しており、式典の前に大統領を迎える雰囲気が盛り上がってきました。

大統領を迎えるレダでは中田所長を中心に日本のスタッフ六人、そして台所を中心に三名のバラグアイの方で準備しました。また応援に来たアスンシヨン大学関係者は稚魚の放流の現場で専門家としての意地を示す献身的な準備をしてくれました。

午前十一時十五分頃、大統領を乗せたセスナが到着し、農牧省大臣と環境省大臣、セキュリティのメンバーが大統領と共に降りてきました。中田さんと佐野さんが中心になつて大統領を修練所のホールに隣接する応接室に案内し、少しの間、談笑をした後、式典に参加しました。

十一時半に大統領府の式典担当の方が司会を行い式典が開始しました。初めに中田所長から放流に至るまでのレダの歩みを十五分ほど報告がありました。(P.3を参照)

その後、大学の水産科の責任を持つ教授が、魚の放流についての専門家のからの説明を行い、その後、大統領が農牧省の副大臣に話すように促し、急であつたので戸惑つていましたが農牧省としても魚の養殖に力を入れてきている旨を報告しました。

大統領は式典でチャコ地方の未来について話をするとともに、チャコ地方のために尽くしている財團に感謝する旨を話され、今後、チャコ地方の開発に力を入れる必要性を、特にインフラ整備、道路の建設、オリンボの滑走路建設などを言わっていました。

大統領の話の後、すぐに放流の場所に移動し、孵化し、成長した魚の稚魚をバラグアイ川で、大統領が初めに放流を行い、次々に放流をし、歓声が上がりいました。(柴沼記)

フランコ大統領演説全文

(パク放流式典、レダにて)

『今日農牧省大臣や環境庁長官、將軍、大佐と飛行機の中で話していました。二〇〇三年私がパラグアイ中央州の州知事であつたとき、私はパラグアイにおいて初めて自然の川を利用して魚を育てる試みを成しました。生来種であるパク、ドラド、ボガ、スルビの4種類の魚を為しました。

現在、外来種であるテラピアやカルバの養殖は非常に進んでいると思いますが、今日、この日のペルトレダでの放流はパラグアイにとって一大ニュースであります。先ほどこの財団の会長が話されたように、魚の肉は牛の肉よりも健康に良いものであり、川に放流するということは非常に有意義な事であります。

また、禁漁期に政府は、漁師に対する援助をしておりますが、政府に頼らないで生活する解決策をレダは提示してくれております。それ故、南北米福地開発協会に感謝しますし、インサオラルデ博士を中心とした大学の水産科の努力に感謝するものであります。政府はこのような努力に常に協力したいと思つております。チャコはパラグアイの面積の六二%を占めておりますが、人口はわずか二%であります。

それ故に今回滑走路がコンクリートになります。雨天の場合でも飛行機の発着が可能になるよう尽力されたオリンポ市長の努力を讃えたいと思います。次に政府はバイアネグラの滑走路もコンクリートにすることを約束したいと思います。

そのことによつて政府がオリンポやレダやバイアネグラのような辺鄙な地域に対しても関心を持つているということを示したいと思つております。

第二に、政府がチャコに対して関心を持つて政策を行つてある証拠として、中央チャコにパラグアイ川の水を送る送水路の建設に現在取り掛かっております。長年苦しんできたチャコ地方にパラグアイ川から水が送られるようになります。私はチャコ地方が最も豊かなところになる可能性を秘めていると確信しています。それ故、健康、教育、通信面のインフラの拡充に取り組んでいきたいと思っています。

それ故に、皆様方がこのチャコにおられ、チャコのために様々な努力をしてくださつていてことに感謝いたします。

私は、南北米福地開発協会がチャコに拠点を置いて下さり、パラグアイを選んでくださいましたことに対して感謝いたします。ペルトレダがチャコの鏡になると思います。またこのような素晴らしい建築物がチャコの豊かさを反映するシンボルになると思います。チャコは政府のサポートを得るにふさわしいものであると思います。

しかしチャコの発展はパラグアイの発展のカギであると思っております。チャコは太平洋と大西洋をつなぐ架け橋であり、アジア経済圏と結ばれるためにはチャコを通らなければなりません。人々がチャコを通らずにはアジアにつながらないということが分かる時が来るのには長くはからないです。

もうすぐチャコは目覚ましい経済発展する時を迎えるでしょう。現在チャコでは、天然ガスが発見され、石油の埋蔵も見つけられ、また鉄、銅、ニッケルなどの地下資源があることが分かつきました。

マリスカルエステイガリビアの町（パラグアイ最北端の軍隊の基地がおかれている町）の飛行場はもうすぐ南アメリカの最も重要な物流の拠点となるでしょう。

一週間に二〇〇機の飛行機のカーゴが発着する拠点になるでしょう。

その町はアルゼンチンのブエノスアイレス、ブラジルのサンパウロ、ウルグアイのモンテビデオ、チリのサンチャゴ、ボリビアのラパスなどと等距離にある戦略拠点として非常に重要な町であります。

南北米福地開発協会のイニシアチブに感謝いたします。また文師のグループの人たちがチャコに投資して下さることに感謝いたします。パラグアイ、特にチャコは非常に将来性のある場所であります。皆様方の投資と存続が今後のチャコの発展に重要な役割を果たしていると思います。チャコこそ今後の政府の政策の最優先の場所であり予算においても最重要場所であつてほしいと思っています。

もうすぐドイツより二十台の四輪駆動のトラックが軍隊に寄贈される予定です。今は敵もいませんし、戦争もありません。

しかし、軍隊はチャコの開発に必要であり、重要な役割を果たしていかなくてはなりません。このトラックはチャコの為、南北米のこのような財団のために使われなければなりません。チャコの発展のための物流に利用されなければなりません。

神様の祝福と幸せが皆様にありますように！

フランコ大統領、レダでの歩み



大統領到着前、警護のスタッフが到着



フランコ大統領レダ到着



出発前、記念植樹をし、パライソ（楽園）とサイン



南北米福地開発協会日本本部から記念品を贈呈

中田所長挨拶
今日ここにお集まりくださった下さったことに心より感謝いたします。
私たちの運動の創始者であられる文鮮明師は、パラグアイの素朴な人柄を限りなく愛され、神様に対する信仰心が世界でも最も愛する国であるとの確信を持ち、特にこの貧しい歴史的に見捨てられてきたチャコ地方こそ神様が創造したままの自然が残り、神様が今まで大切に保存されてきた場所であり、今後神様の祝福を大きく受ける土地であるとの確信から、一か月以上もチャコ地方に住みつつ自らこの地を探索され、このレダの地をチャコ地方復興の基地としました。

それ以来私たちはどのようにすればこのパンタナールの自然を保護し、更にまたこの地域に貢献していくことが出来るかという壮大な課題に取り組んできました。インディヘナの村に学校を建て、この地域に様々な教育支援をする傍ら、植林プロジェクトを通じてこのパンタナール保全に貢献し、更にこの地域の経済に貢献する道を模索しながら十四年間様々なプロジェクトを試行錯誤してまいりました。

また、地球の七割を占める海、水産資源こそ人類食糧問題を解決するカギがあるとの文師の深い信念に基づき、パンタナールでも魚は貴重な食料であり、また沿岸の人たちの貴重な生活の糧でもある魚を保護し、育んでいくことこそパンタナールの保護につながり、この地域の持続的発展がもたらされるものと確信し、三年前よりパクの養殖事業に着手しました。アスンシオン大学水産科の惜しみない協力のもと、今年はパクの孵化に成功し、パラグアイ川に初めて放流できる榮誉に浴することが出来ることを心から感謝している次第です。

この式典に遠くから御参席してくださった皆様に重ねてお礼を申し上げます。これを機会にますますパンタナール保護と地域活性化のために精進してまいりますので今後とも、皆様の温かきご支援をよろしくお願ひいたします。





パク放流の2日前、日本とブラジルから医師団がレダを視察し、将来、近隣のインディヒナの村人を助けるため、レダに診療所を開設することを検討したいと話し合っていました。

第13次国際協力青年奉仕隊隊員募集中

日時：8月26日（月）—9月11日（水） 詳しくは事務局に問合させてください

- ①年齢18歳～25歳（健康な男女）
②自己負担金 15万 ③募集期間（6月20日）



パラグアイ東部ミンガダス市にて環境モデル 都市建設への協力（市民憩いの広場への植樹）

レダでの自然 との触れ合い

トロパンパ村（パラグアイ、チャコ地方）の 学校修復と植樹活動、子供たちとの交流

地球家族として
自然を守りましょう

南米、パラグアイ、パンタナール地域へのエコツアーならびに植林活動を通じて生態系の維持と強化を促進し、その地域をモデルとし、世界に環境保護の大切さを訴えています。

訴えています。

会費は月五〇〇円、
毎月、パンタナール通信を送ります
また、各種のセミナー、エコツアー等の
案内をいたします

案内をいたします

A decorative vertical border on the right side of the page. It consists of a repeating pattern of stylized orange sun-like shapes with many rays and green leaf-like shapes with long stems and small leaves. The background of the border is a pink and light blue checkered pattern.

南北米福地開発協会 事務局
〒二一三一〇〇〇一
神奈川県川崎市高津区
溝口三丁目
居奇

溝口三十

電話

○四四一八二九十一二八二一

会費納入 郵便口座
一〇一八〇一七七六八〇四七一

代表 柴沼邦彦

柴沼邦彦

アスクル Office@asd-nsa.jp

ホームページ <http://www.asd-nsa.jp>

南北米福地開発協 会員の募集中